

# さといも栽培（うねの立て方と植え付け深さ及び培土の影響）

## 1. 試験のねらい

さといも栽培は、従来から浅植えとし、生育初期に培土を行うのが基本であり、特に培土作業は多収に欠くことのできない技術とされている。そこで、この培土作業の省力化をはかるため、うねの立て方と種いもの植え付け深さ及び培土の有無が生育・収量に及ぼす影響を検討した。

## 2. 試験方法

品種は女早生で、種いも重は1個80gとした。うねの立て方は高うね（整形機で30cmの高うね）、平うね（ロータリー耕のまま）で、種いも植え付け深さは5cm、10cm、15cmとし、平うね区だけに培土の有無を組合せて試験を行った。施肥は3要素とも2.5kg/a施用した。種いもの植え付け時期は4月4日で、うね幅100cm、株間40cmの1条植えとし、植え付け直後に透明ポリフィルムでマルチを行った。マルチの除去は7月6日に行い、培土区はマルチ除去後に5cmの厚さに培土を行った。収穫は9月27日と10月25日の2回行った。試験規模は1区18株2区制とした。

## 3. 試験結果及び考察

萌芽期は高うね区がやや早い傾向を示したが、植え付け深さでは高うね5cm区を除いて浅い方がやや早い傾向を示した。生育は各区とも良好で処理間に明らかな差は認められなかった。

いも数は植え付け深さが5cmの浅い区はやや少なく、深くなるに従いやや多くなる傾向を示したが、うねの立て方、培土の有無による差は明らかではなかった。

いもの収量は10月収穫が多く、うねの立て方では平うね区がやや多かった。植え付け深さでは15cm区が多く、10cm、5cmと浅くなるに従い少なくなった。培土の効果は植え付け深さが5cm・10cm区とほぼ同じ収量となったが、植え付け深さ15cm区では培土の効果は認められなかった。

いもの収量に及ぼす影響は種いもの植え付け深さの影響が大で、うねの立て方や培土の影響は小さかった。最も多収を示したのは10月収穫の平うね15cm区で、ついで平うね10cmの培土区であった。

## 4. 成果の要約

さといもの収量は、種いもの植え付け深さの影響が大きく、うねの立て方にかかわらず、種いもの植え付け深さを15cmとすることで無培土でも多収がはかれると考えられた。なお、うねの立て方は、畑地では平うねでよいが、地下水位の高い水田等のほ場では高うねとするのが望ましいと思われた。

（担当者 野菜部 木村 栄）

表-1 萌芽期及び収量(株当りg)

収獲期	うねの形	理		萌芽期	いも数			いも重			1芋重	a当り収量g
		培土の有無	植付深度		子も	孫も	計	子も	孫も	計		
9月27日	平うね		5cm	5月4日	7.3	13.3	20.6	688	546	1234	60	309
		有	10	5月7日	6.4	11.8	18.2	780	715	1495	82	374
			15	5月9日	6.6	10.9	17.5	766	667	1433	82	358
	高うね	無	5	5月4日	7.5	11.0	18.5	509	517	1026	56	257
			10	5月7日	6.8	14.0	20.2	551	849	1400	69	350
			15	5月9日	6.8	13.1	19.9	653	861	1514	76	379
10月25日	平うね		5	5月12日	6.8	9.9	16.7	593	404	997	60	249
		有	10	5月4日	6.6	13.3	19.9	579	691	1270	64	318
			15	5月6日	7.0	12.4	19.4	747	763	1510	78	378
	高うね	無	5	5月4日	5.8	13.8	19.6	532	895	1427	73	357
			10	5月7日	5.8	17.3	23.0	677	1179	1856	81	464
			15	5月9日	5.8	13.7	19.5	655	1081	1736	89	434
10月25日	平うね		5	5月4日	6.3	12.3	18.6	492	702	1194	64	299
		有	10	5月7日	6.4	14.2	20.6	522	962	1484	72	371
			15	5月9日	6.6	16.6	23.2	686	1209	1895	82	474
	高うね	無	5	5月12日	6.2	11.2	17.4	489	543	1032	59	258
			10	5月4日	5.0	15.0	20.0	512	880	1392	70	348
			15	5月6日	6.5	15.0	21.5	718	997	1715	80	429

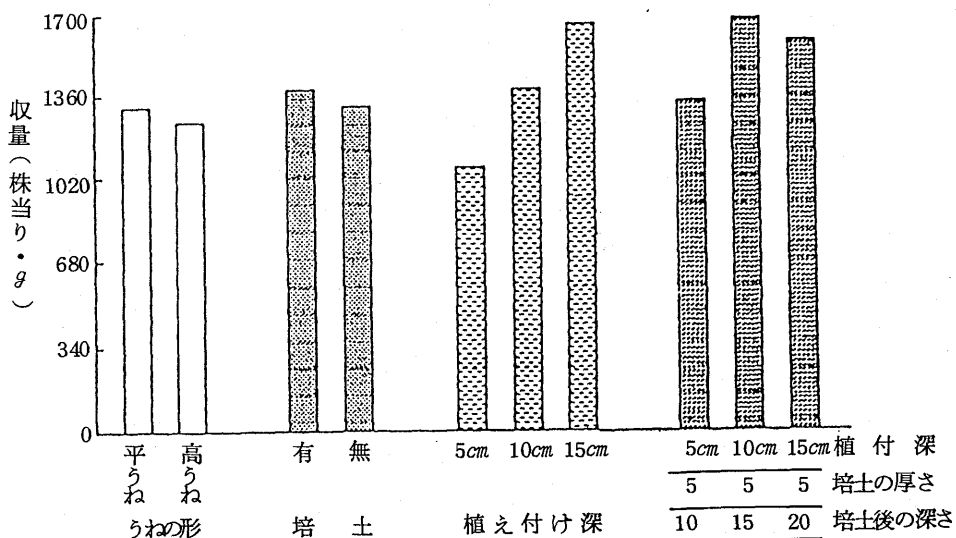


図-1 要因別収量